

平成26年度
まとめと今後の課題をめぐって

第3回 研究開発評価研修(政策評価相互研修会)
平成27年3月26日 TKP虎ノ門ビジネスセンター

公益財団法人 未来工学研究所
理事長 平澤 冷
r.hirasawa@ifeng.or.jp

討論のための導入(1)

■ 1. 過去2年間のまとめ

1. プロジェクトからプログラムへ

- ・研究開発評価から研究開発プログラム評価へ
- ・そもそもプログラム化されている案件は少ない
- ・プログラム設計が主題に
手順等はまとめた。

ヒューリスティックな部分をどのようにして担うか

2. 基盤的知識の整理と経験的知識の集積

- ・研究開発イノベーションに係る基礎的概念、モデル等
ステージ・メカニズム・ターゲットのモデル等
- ・事例分析・事例研究

3. 事例に宿る本質

- ・DARPA型
- ・Fraunhofer型

討論のための導入(2)

■ 2. 今後の課題

1. 上位政策(戦略・計画・総合政策、等)と個別政策

- ・上位政策の枠組みの下での個別政策
上位政策の質が問題に: 広領域にわたる分析
- ・個別課題領域まわりの状況把握・分析

2. 分析のための体制整備

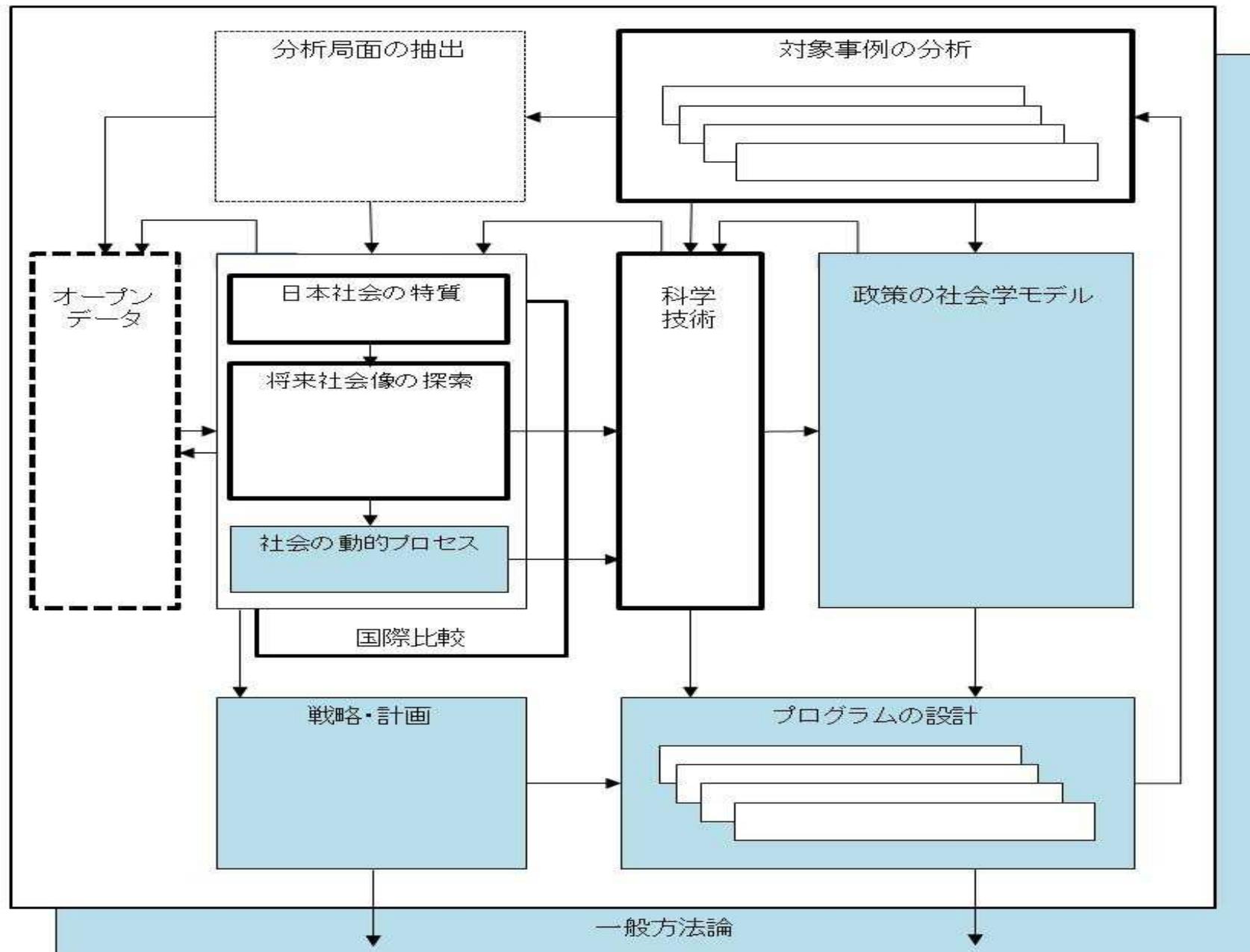
- ・情報等の収集分析(担当機関、分析部署)
- ・アナリストとしての専門的スキルの涵養(分析手段を使いこなせる)
PDPO、URA、PM等は端緒にすぎない

3. ヒューリスティックな体制整備

- ・「**構成力**」=「分析」+「合成」
- ・広い視野と高い見識に裏打ちされた発想の豊かさ

4. 人材配置

- ・専門分化した組織構成



第5期科学技術基本計画の前提

◆1. 情勢変化と将来展望

- ・人口構造の変化
- ・産業構造の変化
- ・ICTによる環境変化
- ・食料・資源・エネルギー・水の世界的需要増
- ・自然災害、気候変動、環境問題への対応

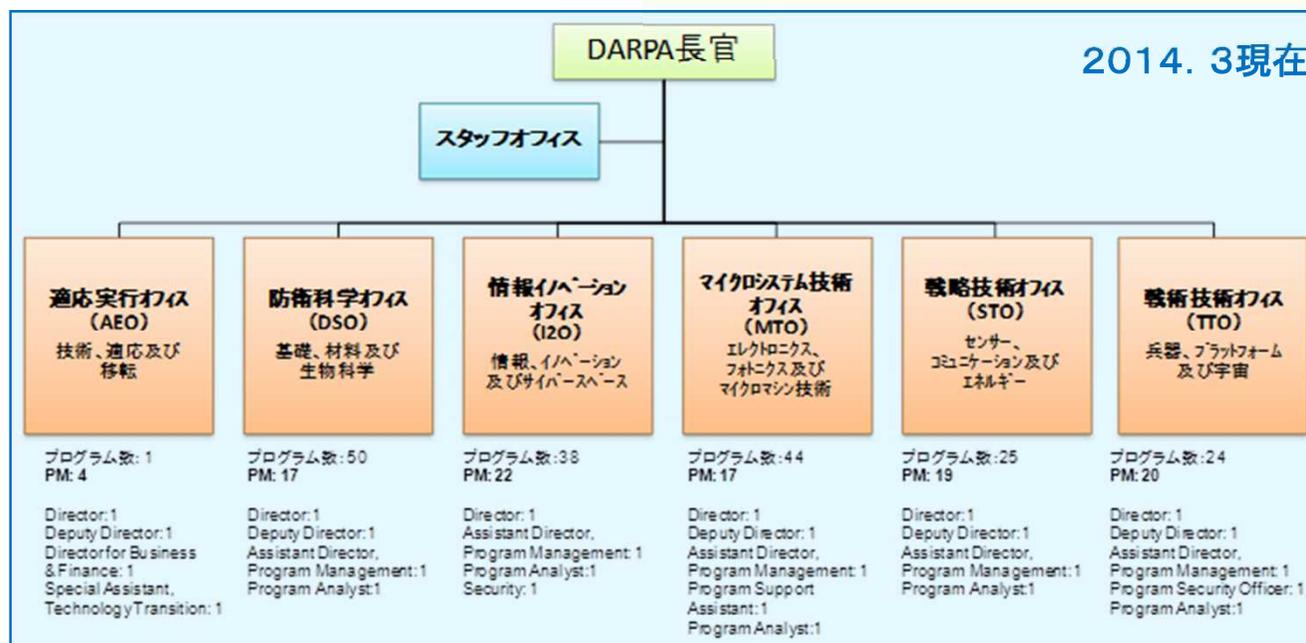
◆2. 目指すべき国の姿

- ・「知」の資産を創出し続け、科学技術により大変革時代に対応できる基盤的な力を育む国
- ・国際産業競争力があり、将来に渡って持続的な成長と社会の発展を実現できる国
- ・安全・安心かつ豊かで質の高い生活を実感できる国
- ・大規模な自然災害や気候変動など地球規模の問題解決に先導的に取り組み、世界の発展に貢献する国

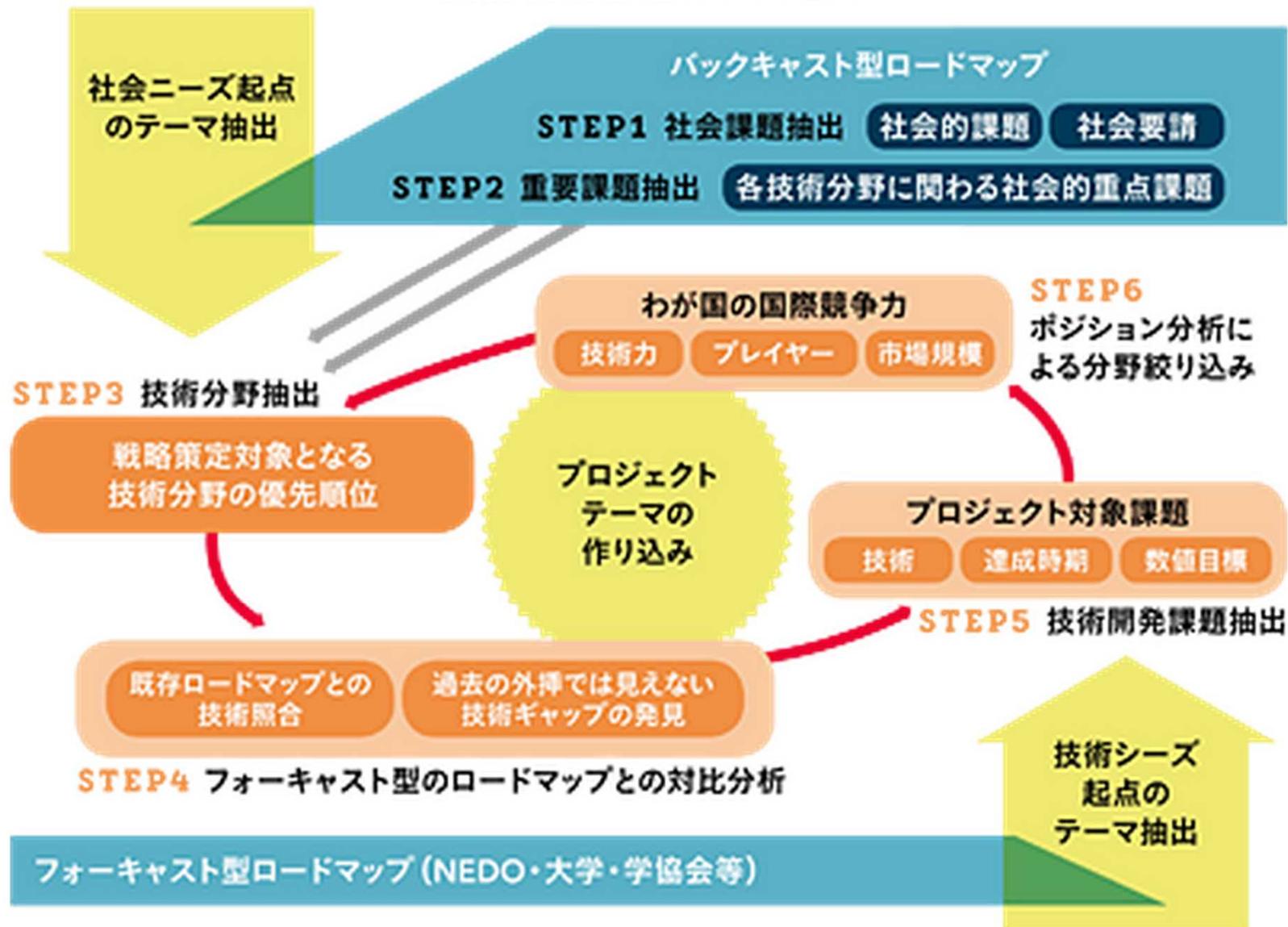
DARPAのプログラムと受皿組織

予算枠の名称	事例	組織構成との対比
Program Element	Defense Research Sciences	予算区分（基礎/応用等）の枠組みに従い階層構造化
Project	Bio/Info/Micro Sciences	
programs	Bio Interfaces	実施組織に対応
projects		

調達・応募形式		
調達	公募	Broad Agency Announcement (満たすべきニーズを示し、 Program Manager を公募)
		Research Announcement : Grant Request for Proposal (領域を示し、 Program を公募)
	非公募 (自主応募)	Program (受皿組織を示す) Prototype
非調達		Technology Investment Agreement



技術戦略策定のプロセス



社会的課題解決の一般的手順(政策の社会学)とITS Americaの経緯

一般的手順:「政策の社会学モデル」* 1)	米国での経緯 *2)
社会問題の認知	1988: MOBILITY2000 1990: IHVS-AMERICA 1991: ESTEA
問題解決の模索	1992: Strategic Plan for IHVS
政策サークルにおける合意形成	1994: ITS America 1995: National ITS Program Plan
立法化の過程	
行政による準備と制度の設定	1996: ITI Established in 75 cities in 10 years

*1) 武川正吾、「政策志向の社会学」、有斐閣(2012)

*2) 平澤 冷、「ITS関連政策の国際比較」、シンポジウム ポリシー・マネジメントの国際比較、第15回年次学術大会
研究・技術計画学会(2000.10.21)